

令和5年度上半期 経営報告会

令和5年11月21日



目次

持続可能な社会の実現に向けた取り組み

SDGsへの取り組み・・・3 気候変動への対応・・・5 お客さまの利便性向上に向けて・・・6

令和5年度上半期の業績（2023年4月～9月）

1-1 預金積金の残高	8	4-2 有価証券の評価損益	15
1-2 預金積金の内訳	9	5-1 純資産の状況	16
2-1 貸出金の残高	10	5-2 自己資本の状況	17
2-2 貸出金の内訳	11	5-3 不良債権の状況	18
3-1 損益の状況	12	6 2023年度計画の進捗状況	19
3-2 損益の増減要因	13		
4-1 有価証券の運用状況	14		

対処すべき課題への取組状況

課題1. 「地域力の強化」への取組状況	21
課題2. 「自律型人材の育成」への取組状況	28
課題3. 「業務イノベーション」への取組状況	30
コンプライアンス態勢の高度化	32

本資料に記載の計数は、単位未満を切り捨てて表示しております。
なお、合計等は原数値で計算してから切り捨てて表示しておりますので、表上の合計が一致しない場合があります。

持続可能な社会の実現に 向けた取り組み

SDGsへの取り組み

持続可能な地域社会の実現への取り組み

■地域の子どもたちに出前授業を実施



「たかはま夢・未来塾」による
金融教室（高浜中央支店）



愛知県立安城高等学校
「SDGs探究授業」

■「WFP国連世界食糧計画」に寄付

定期積金「yell（エール）2022」の総満期契約額
の一定率に相当する金額を寄付



■「あいち森と緑づくり基金」に寄付

「笑顔の定期2022冬」としてお客さまからお預け入れ
いただいた預金残高の一定率に相当する金額を寄付



SDGsへの取り組み

持続可能な地域社会の実現への取り組み

■ SDGs 寄贈型私募債 「パートナーブリッジ」の寄贈品を贈呈

寄贈型私募債	2023年度 上半期
受託数	10件



創立150周年記念クリアファイルを寄贈
(高浜市立吉浜小学校)



■ 「岡崎市SDGs公民連携プラットフォーム」にコアメンバーとして参加





カーボンニュートラルへ向けた取り組み

■ 経営企画部内に「E S G 推進グループ」を発足

■ T C F D 提言に沿った取り組みの開示



■ C O 2 排出量削減の取り組み

<CO₂排出量削減目標>

2050年カーボンニュートラル達成に向け、2030年度までに
CO₂排出量(Scope1、Scope2)を2013年度比**50%**削減します

- 全役職員一体となったC N 運動
「へきしんC N チャレンジ2030」を開始
- 本部ビルの照明をL E D 化

■ 役職員の意識醸成

- 職員向け研修
- 研修動画の配信
- など



職員向けC N 研修

金庫全体でC N の機運を盛り
上げることで、地域のC N 実
現につなげてまいります



ご高齢のお客さま、障がいをお持ちのお客さまへの対応

当金庫では、皆さまが安心してご利用いただけるよう、下記の取り組みを行っています。令和6年4月1日の「障害者差別解消法」における合理的配慮の提供義務化に向けて、差別の解消および利便性の向上に努めてまいります。

<主な取り組み>

- 視覚障がい者対応ATMの設置
※全店の店内ATM（各店1台）と店外ATM
- 店舗・設備のバリアフリー化（一部店舗を除く）
- 窓口振込手数料の引き下げ
※「身体障害者手帳」「療育手帳」等のご提示が必要です
- 代読・代筆の取り扱い
- 「電話リレーサービス」への対応

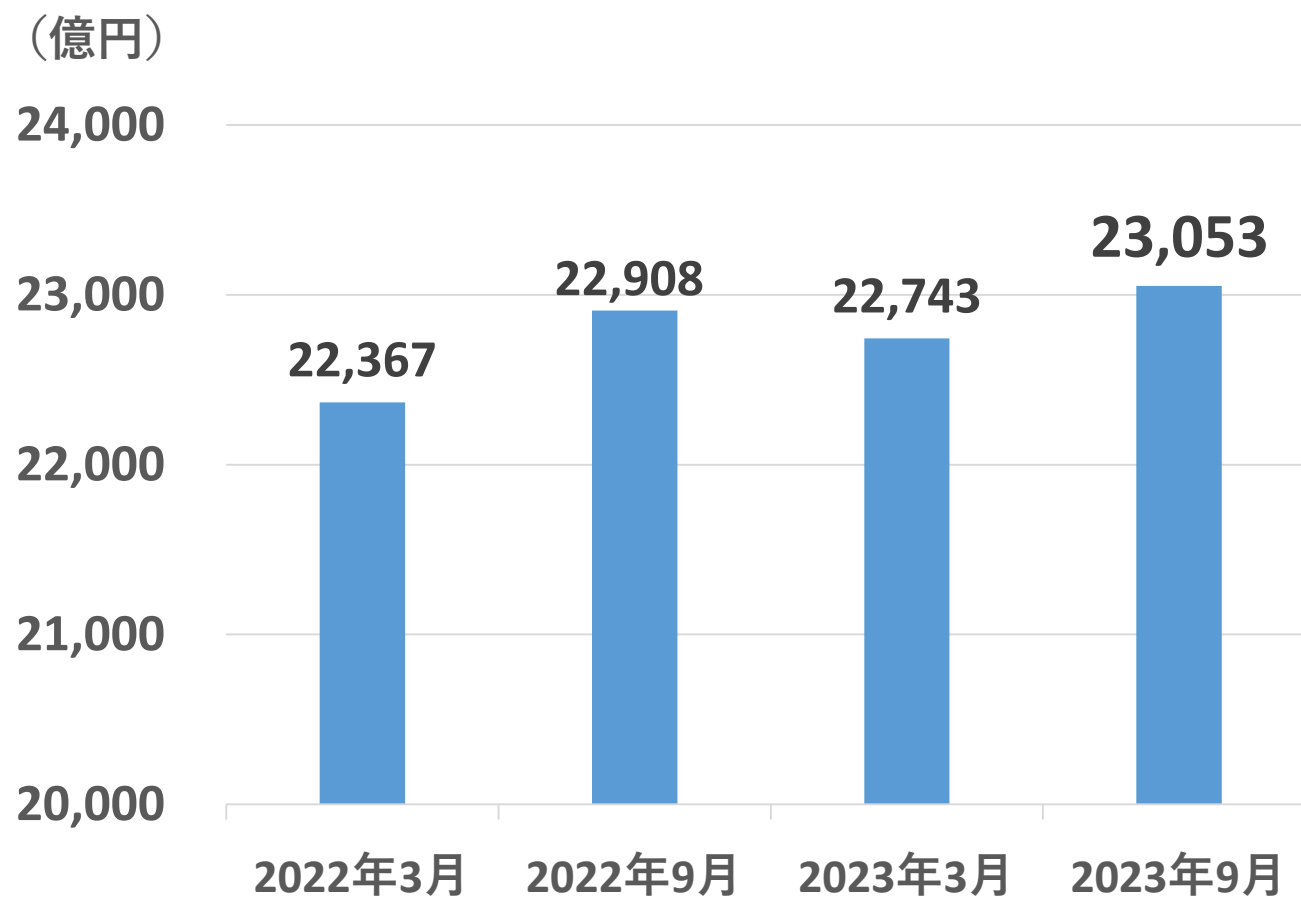


令和5年度上半期の業績

(2023年4月～9月)

1-1 預金積金の残高

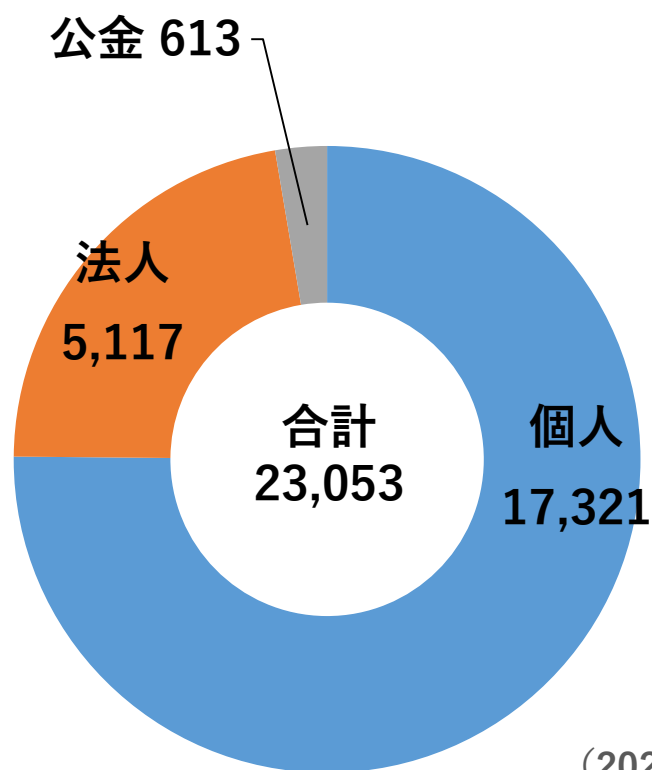
□ 預金積金残高は2兆3,053億円、前期末比309億円増加



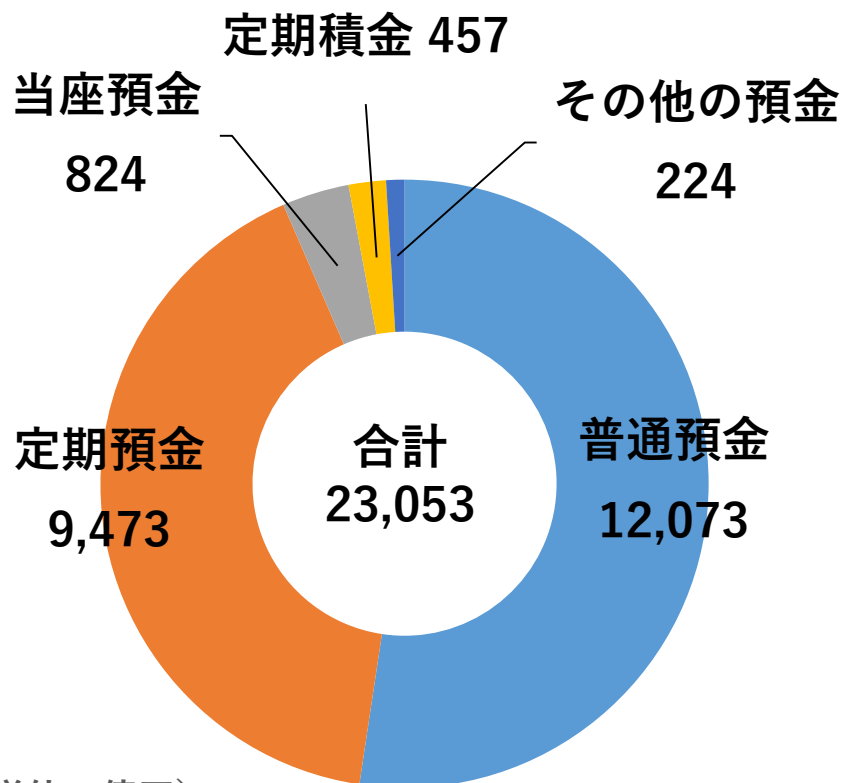
1-2 預金積金の内訳

- 個人のお客さまからの預金積金が全体の75.1%
- 科目別では、普通預金が全体の52.3%

預金者別預金積金残高



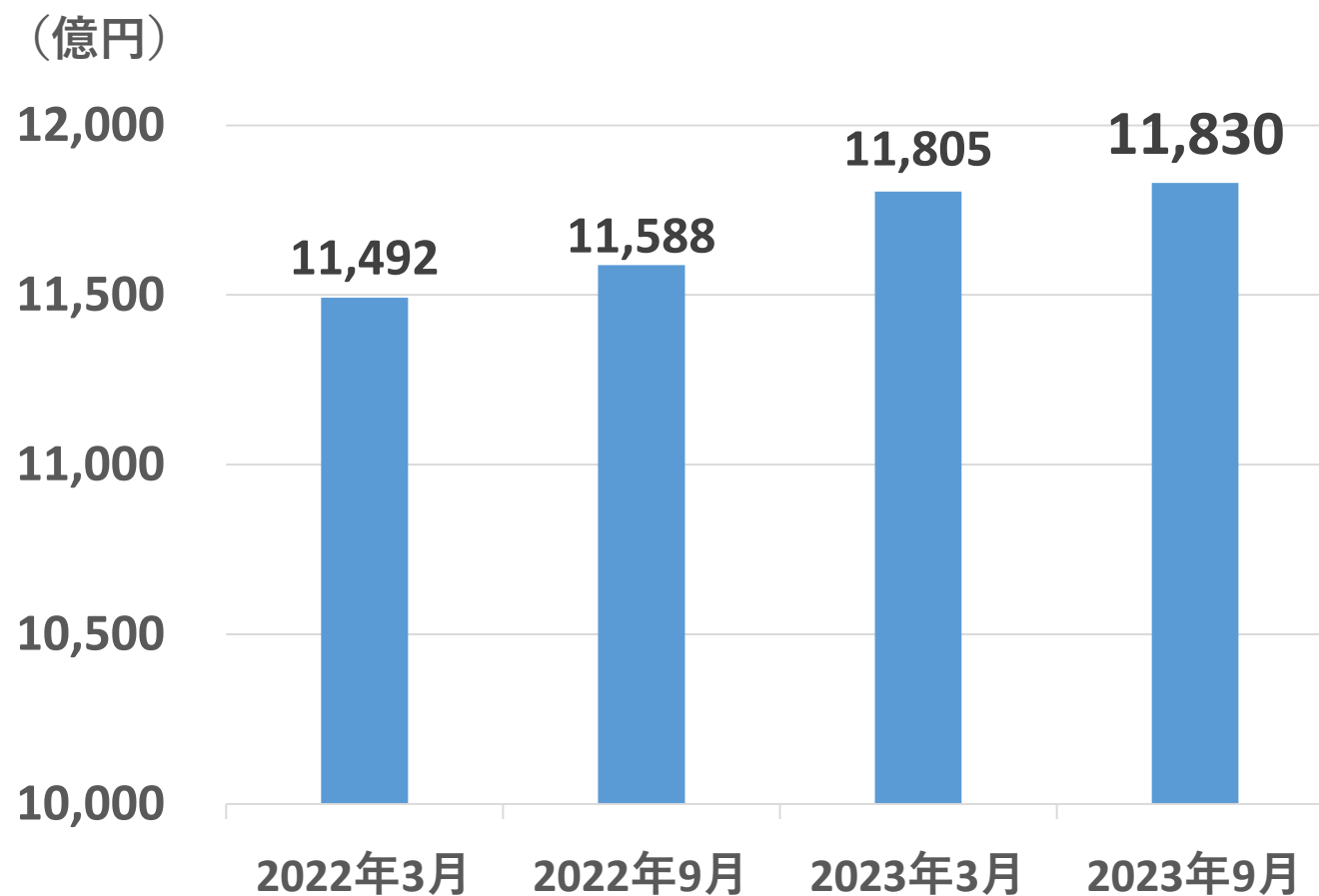
科目別預金積金残高



(2023年9月末、単位：億円)

2-1 貸出金の残高

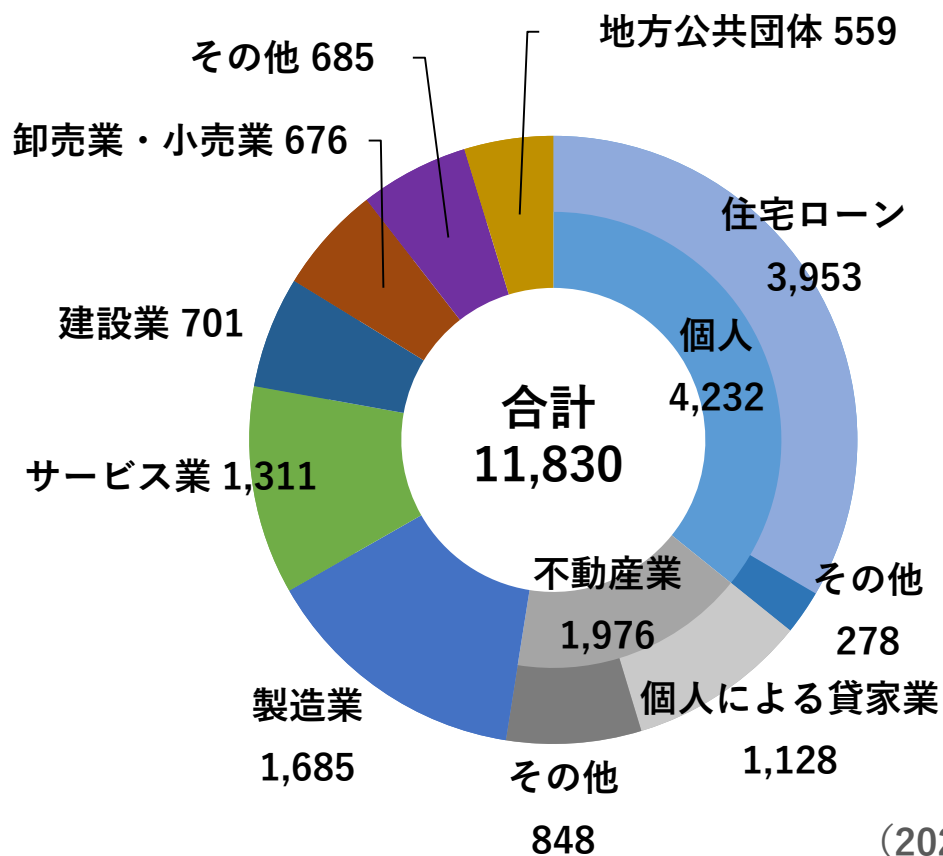
□ 貸出金残高は1兆1,830億円、前期末比24億円増加



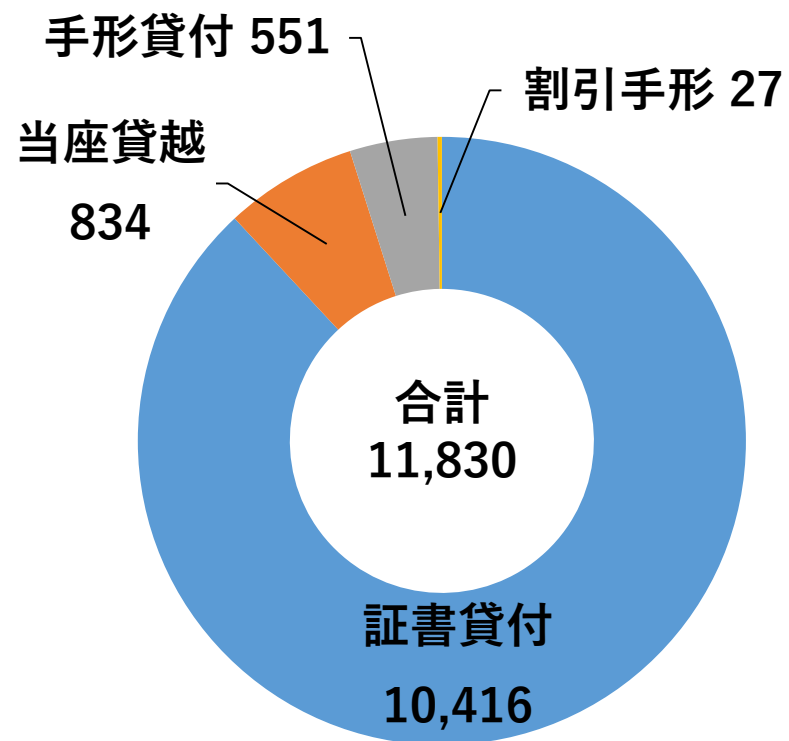
2-2 貸出金の内訳

- 特定の業種に偏ることなく、幅広い業種の資金需要に対応
- 事業者向けの貸出金が全体の59.4%、個人向け貸出金が全体の35.7%

業種別貸出金残高



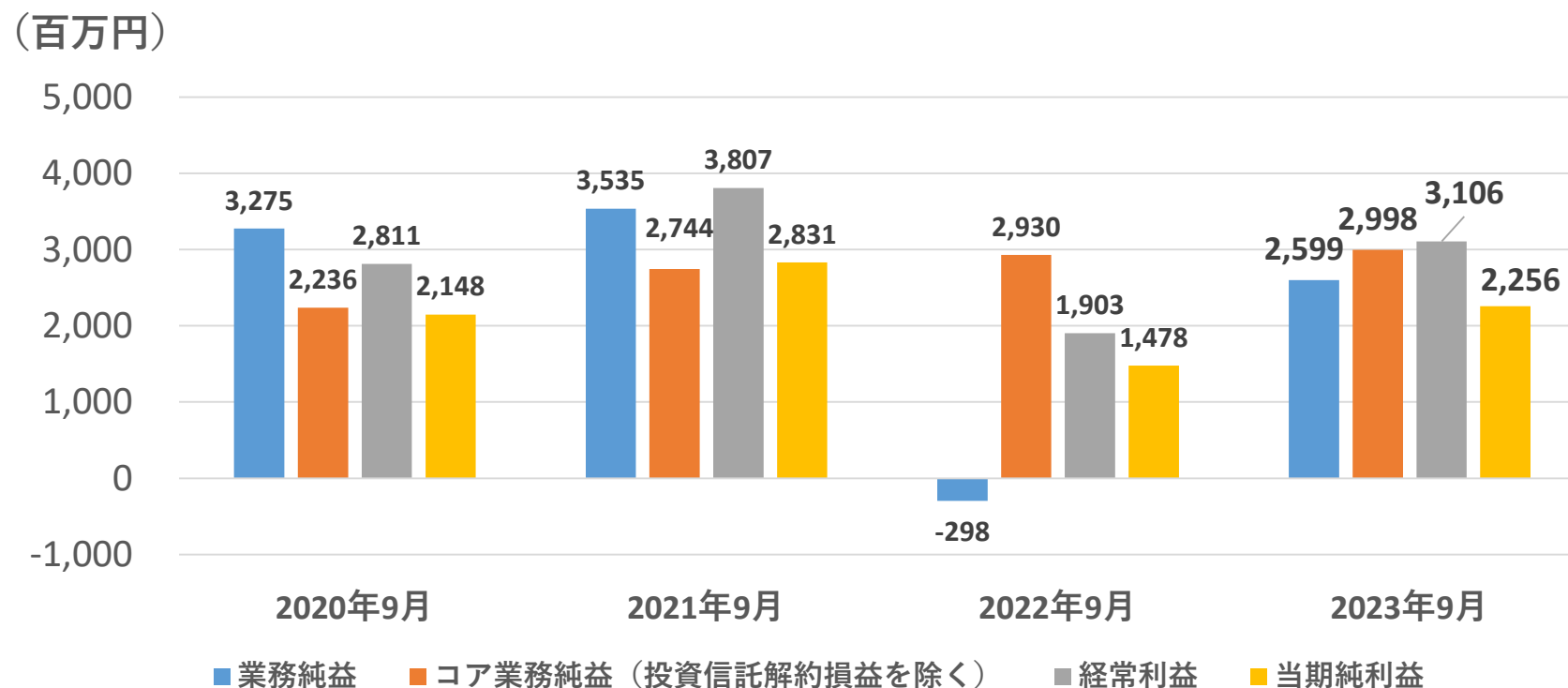
科目別貸出金残高



(2023年9月末、単位：億円)

3-1 損益の状況

- 業務純益・・・25億99百万円（前年同期比 +28億98百万円）
- コア業務純益（投資信託解約損益を除く）
・・・29億98百万円（前年同期比 +67百万円）
- 経常利益・・・31億6百万円（前年同期比 +12億2百万円）
- 当期純利益・・・22億56百万円（前年同期比 +7億77百万円）



3-2 損益の増減要因

(単位：百万円)

	2022年度 上半期	2023年度 上半期	増 減
業務粗利益	7,353	10,010	2,656
資金利益	8,847	9,057	210
役務取引等利益	910	885	△25
その他業務利益	△2,403	67	2,471
国債等債券関係損益	△2,425	37	2,462
経費	7,652	7,410	△241
人件費	5,071	4,797	△274
物件費	2,283	2,289	5
一般貸倒引当金繰入額	—	—	—
業務純益(※1)	△298	2,599	2,898
臨時損益	2,203	507	△1,695
不良債権処理損益	282	△50	△332
株式等関係損益	1,829	473	△1,356
経常利益	1,903	3,106	1,202
特別損益	△2	△3	△1
当期純利益	1,478	2,256	777

実質業務純益(※2)	△298	2,599	2,898
コア業務純益(※3)	2,126	2,562	435
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	2,930	2,998	67

※1 業務純益とは、金庫の基本的業務に係る利益です。

※2 実質業務純益とは、業務純益から、一般貸倒引当金繰入額の影響を除いたものです。

※3 コア業務純益とは、業務純益から、一時的な変動要因（一般貸倒引当金繰入額および国債等債券関係損益）を除いたものです。

(単位：百万円)

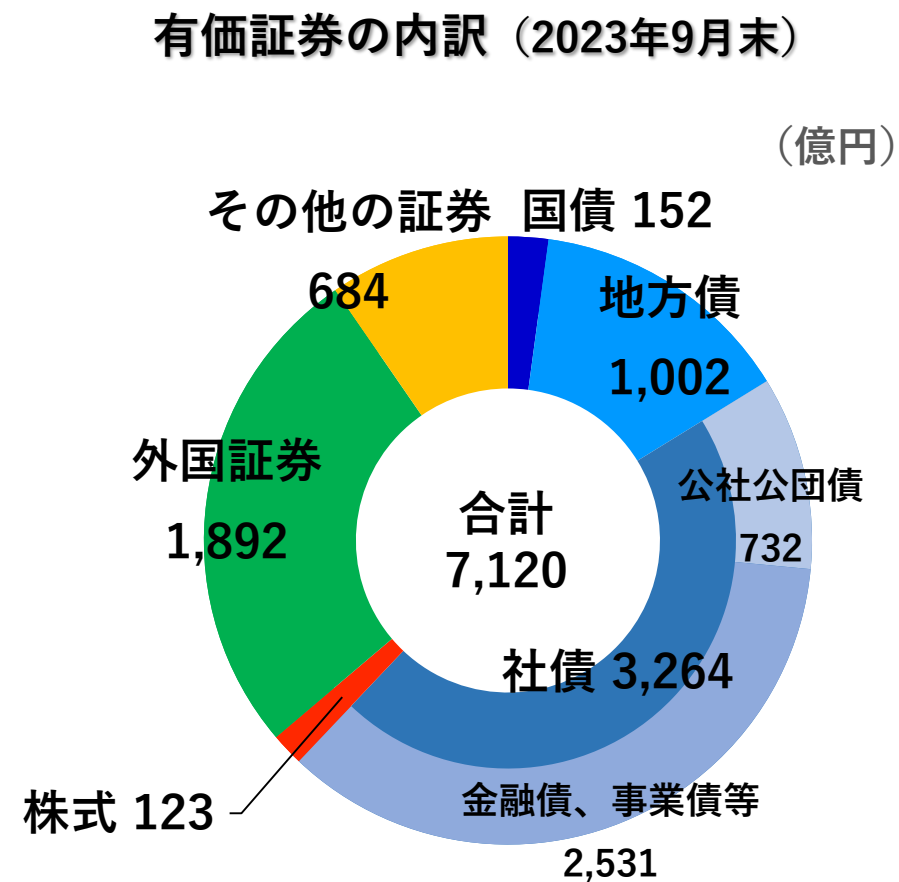
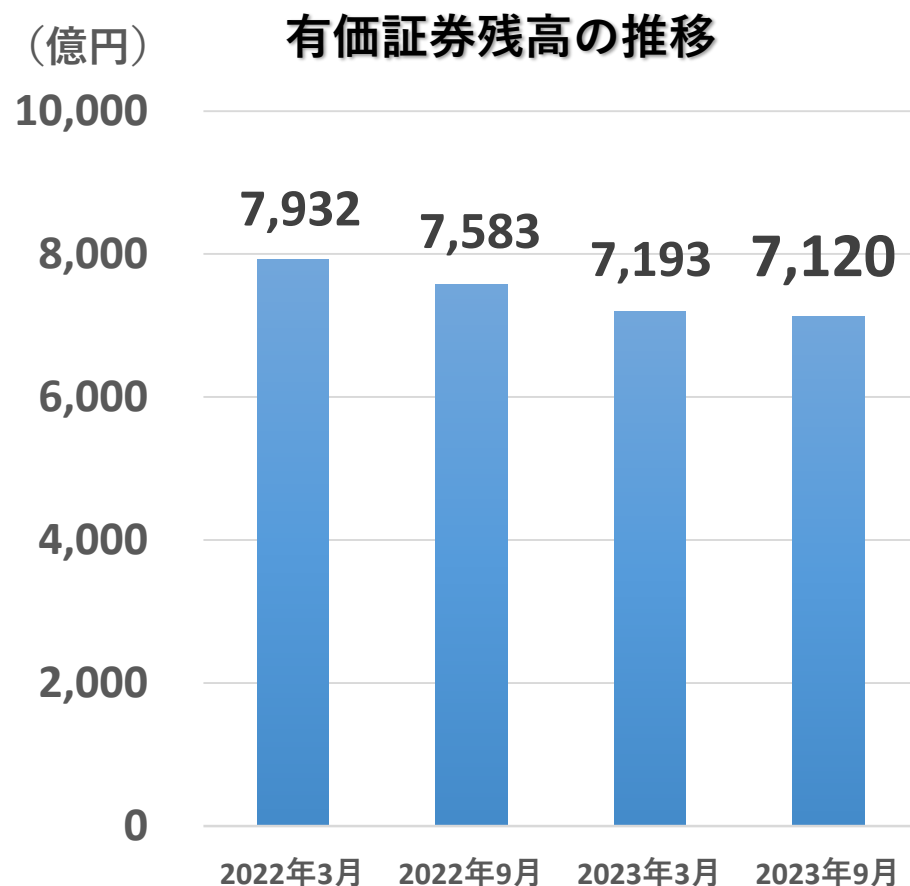
(資金利益の内訳)	2022年度 上半期	2023年度 上半期	増 減
資金運用収益	9,053	9,246	193
貸出金利息	5,372	5,350	△22
預け金利息	312	490	177
有価証券利息配当金	3,142	3,183	41
資金調達費用	206	189	△16
預金利息	203	186	△16

前期、海外金利上昇の影響により、有価証券運用に係る損益が減少しましたが、当期は金融政策変更に伴う国内金利上昇などを想定しリスクを抑制した運用を行った結果、当期純利益は前年同期比7億円増加の22億円となりました。

また、経費の減少などにより、金庫の基本的業務に係る利益から一時的な変動要因と投資信託解約損益を除いたコア業務純益についても増加しました。

4-1 有価証券の運用状況

- 有価証券残高は7,120億円、前期末比72億円減少
- 国内外の金利上昇など金融市場の大きな変動を踏まえ、リスクを抑制



4-2 有価証券の評価損益

- 有価証券の評価損益は△382億円、前期末比98億円減少
- 国内外金利の上昇などにより、債券中心に評価損が拡大
- 内部留保により蓄積された利益剰余金（1,858億円）で吸収できる水準

有価証券の評価損益

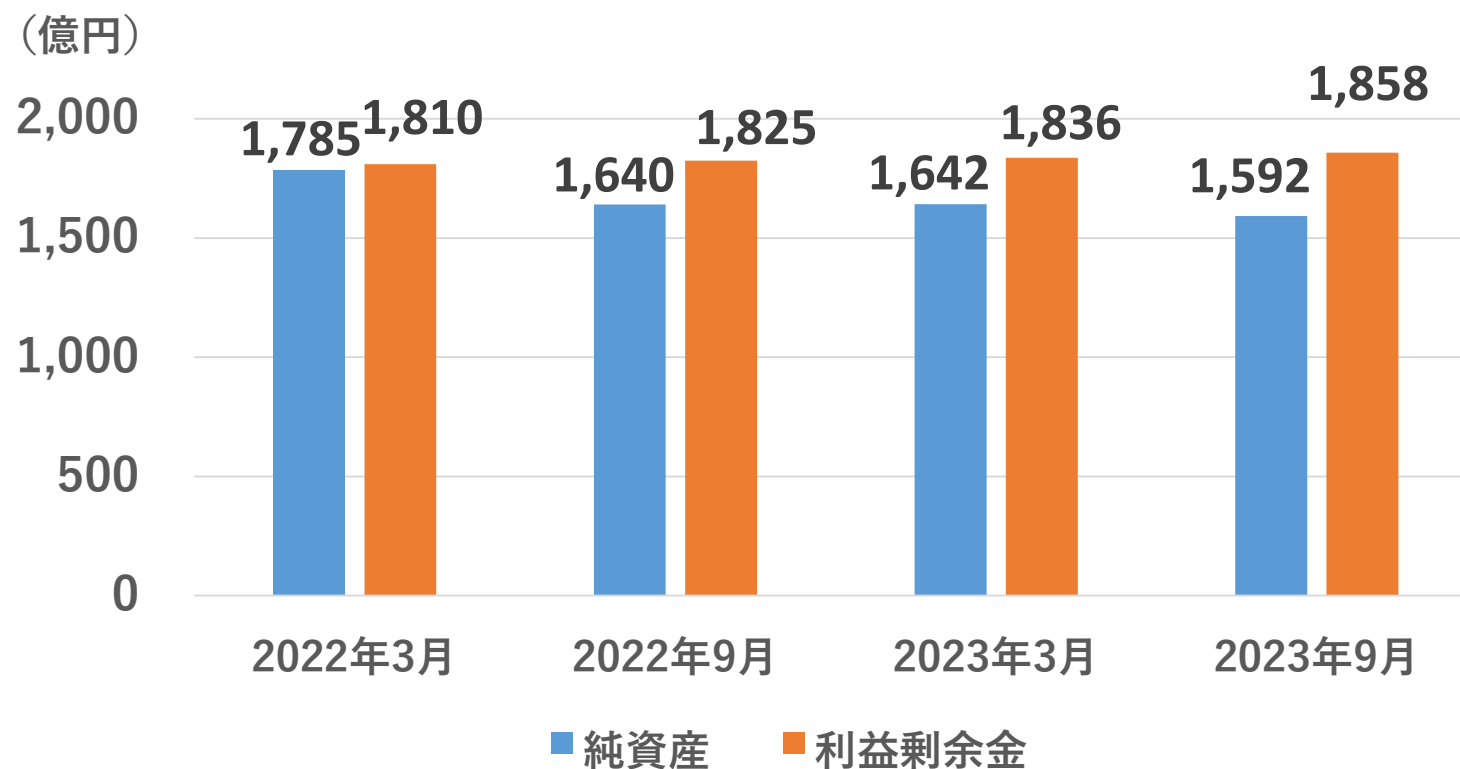
(億円)

	2023年3月末	2023年9月末	増 減
有価証券 計	△283	△382	△98
株 式	30	35	5
債 券	△215	△304	△88
その他	△98	△113	△15

※その他は、投資信託等

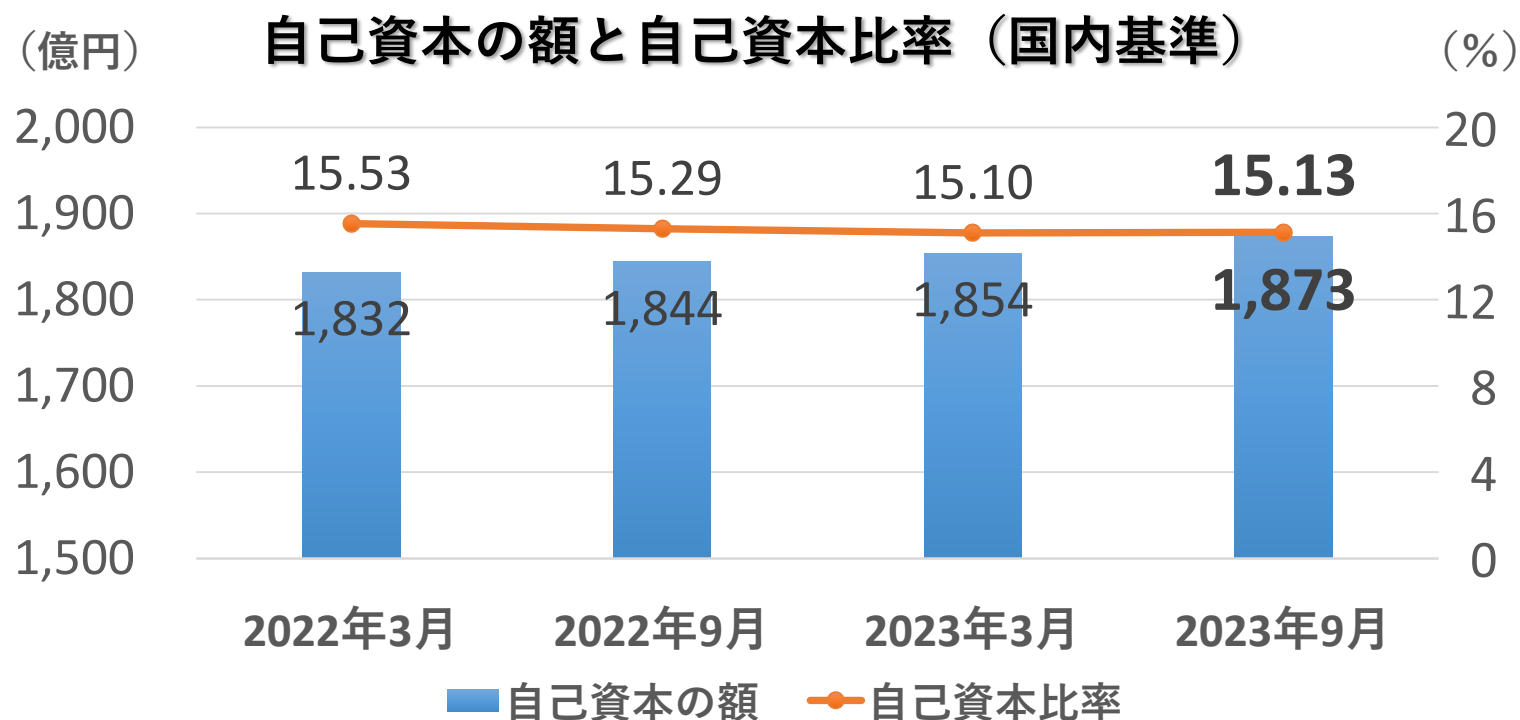
5-1 純資産の状況

- 純資産は、前期比49億円減少の1,592億円
- 利益剰余金は、前期比22億円増加の1,858億円
- その他有価証券評価差額金の減少により純資産は減少したが、利益の積上げにより利益剰余金は増加
- 内部留保により蓄積された利益剰余金の額が多く、純資産の質が高いことが特長



5-2 自己資本の状況

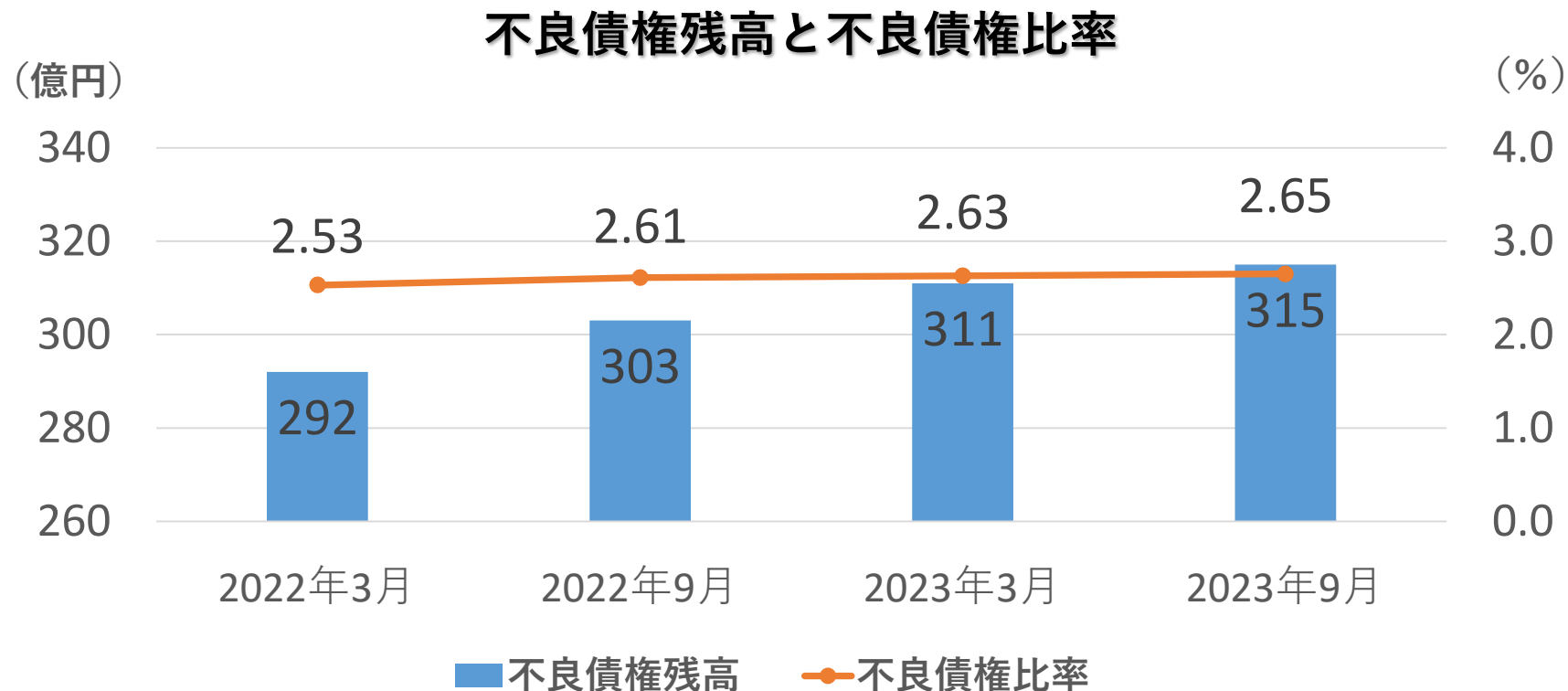
- 自己資本の額は、利益計上により増加し、前期末比19億円増加の1,873億円
- 自己資本比率は、前期末比0.03ポイント上昇し、15.13%



$$\text{自己資本比率(\%)} = (\text{自己資本額} \div \text{リスクアセット}) \times 100$$

5-3 不良債権の状況

- 不良債権残高は315億円、不良債権比率は2.65%
- 不良債権に対する保全率は91.3%



※ 当金庫は債務者に対する債権のうち、回収可能性がないと判断した部分について、直接貸借対照表から減額する部分直接償却を実施しています。
※ 不良債権比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

6 2023年度計画の進捗状況

□ 第10次中期経営計画（3カ年計画）の3年目

指 標	項 目	2023年度 計 画	半期実績
収益性	お客さま向けサービス業務粗利益 (※)	12,000百万円	6,139百万円
	コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	5,700百万円	2,998百万円
生産性	コアOHR (投資信託解約損益、減価償却費、預金保険料を除く)	66.00%以下	64.95%
規 模	預金残高 (期中平均残高)	23,000億円	22,885億円
	貸出金残高 (期中平均残高)	11,750億円	11,756億円
	預貸率 (期中平均残高)	51.00%	51.36%

(※) お客さま向けサービス業務粗利益 = 貸出金利息 - 預金利息 × 預貸率 + 役務取引等利益

対処すべき課題への取組状況

- 課題 1. 地域力の強化
- 課題 2. 自律型人材の育成
- 課題 3. 業務イノベーション

課題 1. 「地域力の強化」 への取組状況

地域力の強化

～ お客さま・地域を起点としたコンサルティング営業の強化 ～

●課題解決を起点としたコンサルティングサービスの強化

■名古屋商工会議所との連携による
「パートナー発掘商談会」を開催

開催日	2023年9月13日・14日 (2日間)
開催場所	碧海信用金庫 御園支店
発注企業	10社 (スーパー、商社、メーカー等)
参加企業数	70社 (商談数94件)
商談形式	対面形式



今後もお客さまの新たな
ビジネス展開を応援してまいります

地域力の強化

～ お客さま・地域を起点としたコンサルティング営業の強化 ～

●課題解決を起点としたコンサルティングサービスの強化

- 三菱UFJ銀行、名古屋銀行と業態の枠を超え
「中部まるごとスタートアップまつり」を初共催
- お客さまの課題解決を支援する各種セミナーを開催
 - ・どうする!?これからの外国人採用セミナー
 - ・へきしんDXセミナー 等
- コンサルティング営業の強化
お客さまのソリューション支援を強化しています。



コンサルティング機能を発揮することにより、お客さまの課題解決に向けて支援してまいります

	2023年度上半期
コンサルティング営業件数	2,107件
事業承継・M&A相談件数	223件
ビジネスマッチング取扱件数	362件

地域力の強化

～ お客さま・地域を起点としたコンサルティング営業の強化 ～

●お客さまのカーボンニュートラル対応への支援

■カーボンニュートラル支援業務の推進

CO₂排出量の算定および削減支援など、お客さまのカーボンニュートラル対応における課題解決のサポートを行っています。

	2023年度 上半期
CN支援相談件数	119件

■自動車関連企業さま向け

「カーボンニュートラルセミナー」を開催

カーボンニュートラル対応に関するお客さまのニーズを適切に把握し、課題解決に向けた支援を積極的に行ってまいります



お客さまとの面談風景

地域力の強化

●あらゆるライフイベントでの相談対応力の強化

- へきしん年金友の会の会員さま向け
「落語で学ぶ相続・終活」セミナーを開催
- 職域サポート制度の充実
「職域専用・特別金利住宅ローン」の取扱開始 等
- ソーシャルメディア（X（旧Twitter）、LINE等）を
活用したお客さまとの接点拡大



「落語で学ぶ相続・終活」セミナー

お客さまのあらゆるライフイベントに対応できるよう、
商品の充実と相談対応力の強化に努めてまいります

地域力の強化

● デジタルサービスを通じた新たな価値の提供

■ 2023年3月に「DX戦略」を策定

<DX-Vision> 新しいFace to Faceを実現し、より身近な信用金庫へ

～サービスや業務へのデジタルの活用と、組織のDXリテラシーの底上げを通じて、非対面・対面サービスの相乗効果を発揮する～

■ 経済産業省「DX認定事業者」の認定取得

※愛知県内の信用金庫では初の取得



■ DX戦略の進捗（KPI）

DX戦略の進捗を総合的に計るモノサシとして、以下4つのKPIを設定

- ① デジタルユーザー数 （へきしんアプリダウンロード数、スマート管理Biz利用先数など）
- ② お客さまとのコミュニケーション量 （有効面談数、アプリ取引量、メルマガ開封数など）
- ③ 3レス推進による事務削減時間 （印鑑レス／キャッシュレス／ペーパーレス、RPAなど）
- ④ デジタル人材数 （IT系資格取得および所定の通信教育の受講を満たした職員数）

👉 各KPIの詳細については、ホームページにて公表

地域力の強化

● デジタルサービスを通じた新たな価値の提供

■ 南山大学とデータサイエンス分野における
産学連携協力に関する覚書を締結

■ 地域の皆さま向け「スマホ体験教室」を開催

■ スマホ決済サービス「Bank Pay」
「ことら送金」の取扱開始

引き続き、地域金融機関として貢献できるよう、
お客さまの様々なニーズに対し金融支援・本業支援
を展開するとともに、DX推進に対しても積極的に
取り組んでまいります



南山大学との調印式



スマホ体験教室

課題 2. 「自律型人材の育成」 への取組状況

自律型人材の育成

～一人ひとりがやるべきことを考え、行動できる強い組織へ～

●多様な人材が活躍できる 組織作りに向けた人材育成

■DX人材の育成

- ・DX研修、トレーニーの実施
- ・「ITパスポート」の取得を推奨

■全役席者にマナー・ローンダリング関連資格の 取得を促進

■庫内ロールプレイング大会の開催

●職員の満足度、帰属意識の向上

県内企業で初の不妊治療と仕事との両立もサポートする

■「プラチナくるみんプラス」を取得



庫内ロールプレイング大会



これら取り組みを通じて、
「自律型人材の育成」を
着実に進めてまいります

課題3. 「業務イノベーション」 への取組状況

業務イノベーション

～ 職員のパワーをお客さまのためにシフト ～

●内部事務削減、お客さまとの時間創出

■本部への営業店融資事務集中化の拡大

融資事務集中化	2023年度上半期
営業店の事務削減時間	3,458時間

■「地方税統一QRコード」活用による窓口収納事務の効率化

※一部店舗にはQRコード収納対応ATMを導入

■WEB完結型ローン商品の拡大

※上半期は2商品を発売開始

WEB完結型商品

お客さまとの時間創出のため、
内部事務削減と営業効率の
向上を進めてまいります

コンプライアンス態勢の高度化

- ・ 経営環境の変化に対する改善提言の実施
- ・ お客さま本位の業務運営の実践
- ・ 業務やリスク管理態勢の課題把握
- ・ 自律型コンプライアンス意識の醸成
- ・ リスクベース監査への深化、経営監査に向けた取り組み
- ・ 監査人材の育成

お客さまに安心してご利用いただける金庫を目指し、
取り組んでまいります

本日は、経営報告会にご参加いただき、誠にありがとうございました。
本日の説明内容に関するご照会等がございましたら、下記までお願いいたします。

【お問い合わせ先】

碧海信用金庫
経営企画部 企画グループ
TEL 0566-77-8102

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経営環境の変化などにより、変動する可能性があることにご留意ください。
また、本資料に掲載されております計数につきましては、会計監査人の監査を受けておりません。